

◆優 良 賞◆

感謝を形に

旭陵中学校 二年

木野ゆずか

大きに気づきました。

「今日のご飯、どうだった。」

と母に聞くと、

「うまくできていたよ。美味しかったよ。」

と言つてくれました。私はその言葉が、とても嬉しくて、心が温まりました。そう思うと同時に、今まで母にもつと、「美味しかった。」「ありがとう」などの感謝の言葉を伝えてこなかつたことを、酷く後悔しました。

私は今まで、当たり前のようにご飯を食べていました。朝起きたら朝食があり、帰つてきたら、温かい夕食があること、何も考えずに、それを当然のよう受け取つていました。

今回の経験を通して、「ありがとう」という感謝の気持ちを、言葉だけではなく、行動でも示していきたいと強く思うようになりました。大きなことはできなくても、毎日の中でできることを、少しづつ増やしていきたいです。

また、母だけでなく、家のことをしてくれる家族全員に對して、言葉はもちろん、もつと感謝を行動にできるような人になりたいと思いました。私にとって、夏休みの家庭科の課題は、ただ料理をするだけのものではありませんでした。家族のありがたさに気づき、感謝の気持ちを形にする

ことで、大きさを知るきっかけとなりました。

私はこの夏休みに家庭科で「一日分の食事を作る」という課題が出されました。私は、自分で一日分の食事を作ることがなかなか無かつたのですが、一日分の食事を作るだけなら、そこまで難しくないだろうと、軽い気持ちで考えていました。しかし、実際に取り組んでみると、その考えは甘かつたのだと気づきました。

まずは、献立を考えるところからつまずきました。朝、昼、晩でそれぞれ違う献立で、美味しく、かつ栄養が摂れる食事。考えなければいけないことが多く、想像以上に頭を悩ませました。たつた一日分の献立なのに、決めるだけで時間がかかつてしまい、思つていたよりもはるかに大変でした。

献立を決め、食材を揃えて、調理を開始します。しかし、いざ自分でやってみると、うまく均等に食材を切れない、火加減がわからず、食材にうまく火が通らない、と失敗の連続で、いつも見ている母のよう、段取りよく進めることができませんでした。やつと作り終えても、片付けをしている間に次の食事を作る時になつていました。

たつた一日、三食を用意しただけなのに、終わつた頃にはぐつたりとしまいました。作るのも大変、片付けるのも大変。それを毎日、家族の分まで当たり前のようにこなしている母の姿を思い出し、改めて、母の偉